

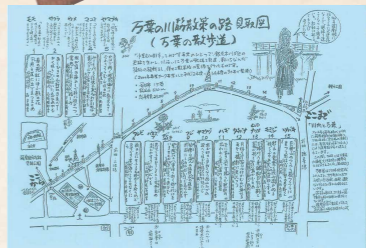
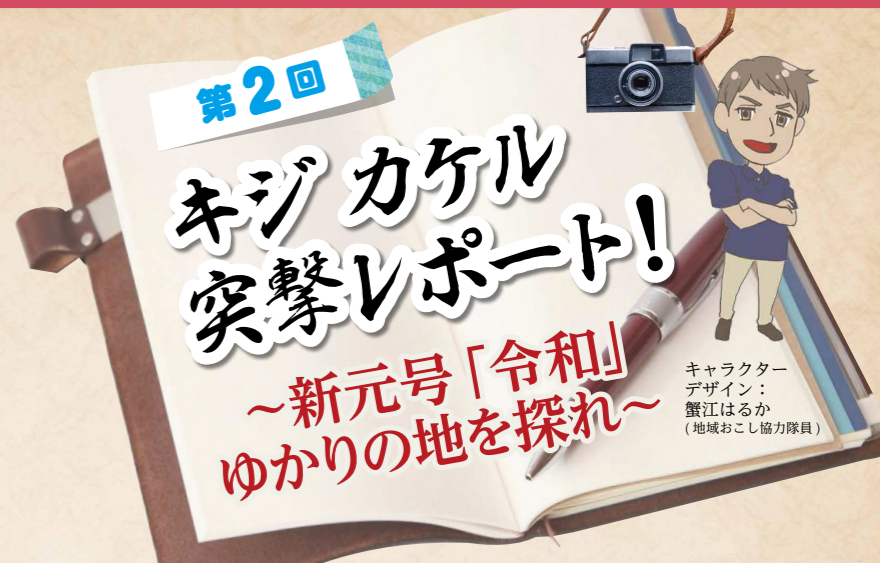


さらに進むと、ブロンズ製の大伴家持像が現れました。左手には木簡(字などを記す木の札)、右手には筆を持った姿で、台座には「未だへ語る歴史像」とあります。家持像がある所で散歩道は終了かと思いましたが、市道を挟んだ向こうにも歌碑が並んでいて、全15基の歌碑を確認することができました。

調べているうちに、令和とのゆかりがだんだんと見えてきたので、「令和」と「万葉の散歩道」、高氏海人が詠んだ歌とのゆかり、その歴史を下段の絵巻風にひもといってみました。薩摩にゆかりのある大伴旅人と大伴家持の親子。大伴旅人邸で開かれた梅花の宴。そこで歌われた梅花の歌とその一首である高氏海人の歌。大伴家持も編さんに携わった万葉集。それをテーマに整備した万葉の散歩道と高氏海人の歌碑。



5月1日、「平成」に代わる新元号「令和」が幕を開けました。「令和」は、万葉集の「梅花の歌」の序文「初春の令月」に気淑く風和ぎが基となっているそうです。本市には、新元号「令和」やその基である万葉集にゆかりの地があるとの情報が入ってきました。これらぜひ行って調べてみたいと!



▲万葉の川筋散策の路(万葉の散歩道)見取図。散策の前に川内歴史資料館で入手が必須ですよ。詳細はぜひその目で。

情報を基にたどり着いたのは、中郷二丁目の川内歴史資料館や川内まごころ文学館の裏手に当たる銀杏木川沿いに整備された「万葉の散歩道」です。川内歴史資料館を訪ねると、「万葉の散歩道の見取図」なるものをいただくことができました。



▲豊橋のそばにある「万葉の散歩道」の石碑。ここがスタートのよう

見取図では、万葉の散歩道の整備事業もうかがい知ることが出来ます。下にレポートをまとめてみました。歌碑にちなんだ四季を彩る15種の植物を歌碑の隣に実際に植えているというのが粋ですね。それでは、見取図を手に早速万葉の散歩道を歩いてみたいと思います。



最初に見えてきた歌碑は、万葉集の編者でもある大伴家持が詠んだとされる「春の苑紅にほふ桃の花下照る道に出でまつをとめ」という歌碑。解説には、「春の園の紅色に咲いている桃の花の下まで輝く道に たたずむ乙女よ」とあります。さらに歩を進めると、梅花の歌32首に含まれている歌碑が3番目にありました。大伴旅人邸で開かれた「梅花の宴」で詠まれたのではないかとされている高氏海人の「我が宿の梅のしげに遊びつつ鶯鳴くも散らまじ惜しき」という歌碑です。

解説には、「我が家の梅の枝でうれしそうに うぐいすが鳴いているわ 散るのを惜しんで」とあります。

梅花の歌の序文から引用した新元号の令和。今、まさに、点と点が線でつながり、現代を形成しているような気がしてなりません。いかがでしたでしょうか。本市と「令和」、そして万葉集を、今までより身近に感じていただけただけではないでしょうか。川内歴史資料館では、今後、元号にちなんだパネル展なども予定されているようです。万葉の散歩道と併せて、ぜひお出掛けしてみたいかがでしょうか。



皆さんが知りたいことや紹介したいことなどがありましたら、情報をお寄せください。キジカケルが取材に伺います。【問合せ先】 本庁広報室広聴広報グループ 電話(23)51111(内線632)

702年、薩摩国府(地方国の都)が本市に設置される。720年、隼人の反乱の鎮圧のため、大伴旅人が征隼人持節大將軍に任命される。730年、大伴旅人邸で、「梅花の宴」が開催され、新元号「令和」の基となった「梅花の歌」の序文や梅にまつわる和歌32首が歌われる。(ここで、高氏海人の歌も詠まれた!?) 741年、聖武天皇の詔により、全国に国分寺が建立される。*薩摩国分寺は、奈良時代末期から平安時代初期に建立されたと推定される。764年、大伴旅人の子であり万葉集の編者でもある大伴家持が薩摩守に任官される。770年頃、万葉集が完成する。時は流れ2002年、薩摩国分寺跡・薩摩国府跡があった一帯に、大伴家持と万葉集をモチーフとした「万葉の散歩道」が完成。2019年、万葉集「梅花の歌」の序文から引用した新元号「令和」が始まる。

その2 大伴旅人 飛鳥時代から奈良時代にかけての公卿・歌人で大伴家持の父。728年に大宰帥として大宰府に赴任。大伴家持 万葉集の編者で歌人、三十六歌仙の一人。764年には、薩摩守に任官された。高氏海人 薩摩国の目(書記官)で、万葉集に歌も残す。梅花の宴にも出席していた?!

その1 万葉の散歩道整備事業レポート 銀杏木川流域の歴史的背景を生かし、平成12年度から14年度の3カ年にかけて整備。万葉の歌碑15基の設置と隣には、それにちなんだ植物の植栽を実施。刻字は、市内の書家の方々の揮毫(書を書いてもらうこと)によるもの。総延長630m。総事業費25,285千円。

カケルくんの足跡 至出水駅 至東郷町 至川内駅 至国道3号 万葉の散歩道 コープ 川内まごころ文学館 川内歴史資料館 薩摩国分寺跡 史跡公園